

東川町農耕地土壤図(1/5万)

(地力保全基本調査、上川中部地域)

1994年 3 月

北海道 上川 支庁
北海道立上川農業試験場

113

本土壌図は、東川町が実施した昭和60年転作経営安定特別事業土壌調査とその後に行われた道営土地改良事業土壌調査、地力増進地域指定土壌調査の結果を基に、地力保全基本調査の様式により編集発行した。

(道立上川農業試験場 土壌肥料科)

目 次

土 壤 統 一 覧	1
各統の説明	
1. 光 和 統	3
2. 岐 登 牛 統	5
3. 上 岐 登 牛 統	7
4. 津 山 統	9
5. 北 立 統	11
6. 西 忠 別 統	13
7. 忠 別 中 央 統	15
8. 忠 別 川 統	17
9. 東 忠 別 統	19
10. 東 雲 統	21
11. 倉 沼 統	23
12. 下 岐 登 牛 統	25

土壤統および土壤区一覧

(1) 土壤統一覧(畑・草地)

統番号	地図上 記号・ 代表No	土壤統名 (分布面積)	色 層 序	腐植層序	簡略 分級式	礫層・砂礫層 を混在する 砂層	酸化 沈積物
1	Kw 13	光和 (119)	YR/ YR	表層 腐植層なし	III fnse II tdg	なし	なし
2	Ku 12	岐登牛 (5)	YR/ YR	表層 腐植層なし	III dfnse II tg	なし	なし
3	Kk 17	上岐登牛 (98)	YR/ YR	表層 腐植層なし	IV g III dpf II tnise	あり (20cm以下)	あり
4	Tu 11	津山 (5)	YR/ Y	表層腐植層	III dpwf II nse	あり	あり 33cm以下

(2) 土壤統一覧(水田)

統番号	地図上 記号・ 代表No	土壤統名 (分布面積)	色 層 序	腐植層序	簡略 分級式	礫層・砂礫層 を混在する 砂層	酸化 沈積物
5	Ho 1	北立 (59)	YR/ Y	表層腐植層	III pn II f	なし	あり 40cm以下
6	Nt 7	西忠別 (611)	YR/ YR	表層腐植層	II pfn	あり (80cm以下)	なし
7	Tt 6	忠別中央 (1,092)	YR/ YR	表層腐植層	III dl II gfn	あり (24cm以下)	なし
8	Tg 8	忠別川 (248)	YR/ Y	表層 腐植層なし	III gn II tdlf	あり (12cm以下)	あり
9	Ht 2	東忠別 (654)	YR/ Y	表層 腐植層なし	II tln	なし	あり 25cm以下
10	Sn 3	東雲 (131)	YR/ B	表層 腐植層なし	III p II dlr	なし	あり 35cm以下
11	Kn 5	倉沼 (279)	YR/ B	表層 腐植層なし	III p II tdfn	あり (66cm以下)	あり 19cm以下
12	Sk 4	下岐登牛 (24)	YR/ Y	全層 多腐植層	III p II td I rfn	なし	なし

土 性		泥炭層 黒泥層 の有無	グライ層	堆積様式	母 材	土 壤 型	
表 層	次 層					土壤統群名	全国土壤統
粘 質	壤 質	な し	な し	残 積	火砕流 堆積物	中 粗 粒 褐色森林土	裏 谷 06B12
粘 質	粘 質	な し	な し	残 積	安山岩	細 粒 褐色森林土	上 06A03
強粘質	粘礫層	な し	な し	残 積	安山岩	礫 質 褐色森林土	千 原 06C23
強粘質	粘 質	な し	な し	残 積	安山岩	細 粒 灰色台地土	江 迎 07A04

土 性		泥炭層 黒泥層 の有無	グライ層	堆積様式	母 材	土 壤 型	
表 層	次 層					土壤統群名	全国土壤統
粘 質	粘 質	な し	な し	洪 積	非固結 水成岩	細 粒 灰色台地土	江 迎 07A04
強粘質	強粘質	な し	な し	水 積 (河成沖積)	非固結 水成岩	細 粒 褐色低地土	礫 下 12A01
粘 質	礫 質	な し	な し	水 積 (河成沖積)	非固結 水成岩	礫 質 褐色低地土	外 城 12C07
壤 質	礫 質	な し	な し	水 積 (河成沖積)	非固結 水成岩	礫 質 褐色低地土	二 城 12C06
粘 質	壤 質	な し	な し	水 積 (河成沖積)	非固結 水成岩	中 粗 粒 灰色低地土	善通寺 13E18
強粘質	壤 質	な し	あり 45cm以下	水 積 (河成沖積)	非固結 水成岩	中 粗 粒 グライ土	新 山 14E21
強粘質	強粘質	な し	あり 32cm以下	水 積 (河成沖積)	非固結 水成岩	細 粒 強グライ土	富曾亀 14A01
強粘質	泥 炭	あ り	あ り 24cm以下	水積／集積	非固結 水成岩	泥 炭 土	岩 沼 16A04

1. 光 和 統

A-1 土壤統の特徴

本統は標高450m前後の丘陵地に分布する酸性褐色森林土である。母材は流紋岩質の美瑛火砕流堆積物である。丘陵地上の平坦部分では土壌も厚く母材からの礫も少ないが、浸蝕を受けた急傾斜地では礫が浅く出現する。作土は、母材が風化されて土性は細粒質であるが、下層土は粗粒質となる。土壌の可塑性、粘着性は弱い。排水性は良好である。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No. 13 東川町光和 JA東川所有地)

土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備 考
黄褐 10YR4/4	CL	粒状 塊状	13	弱	なし	半乾	大	細粒褐色森林土 凝灰岩風化礫あり
黄褐 10YR5/4	SL	塊状	23	弱	なし	半湿	大	
黄褐 10YR6/3	SL	塊状	20	弱	なし	半湿	大	

A-3 代表土壤断面の理化学性

層 位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重g/100ml	
			粗砂	細砂	シルト	粘土			風乾土	現地
1	0 ~ 32	2.7	33.7	20.6	29.6	16.1	CL	2.50	92.8	
2	32 ~ 54	2.8	49.6	21.3	20.2	8.9	SL	2.50	112.2	
3	54 ~	1.4	68.9	13.3	10.6	7.3	SL	—	—	

層 位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リソ酸吸収 係数
	固相	液相	気相					H ₂ O	KCl		
1	36.4	38.1	25.5	1.97	0.19	10.4	3.4	5.2	4.4	4.4	1,300
2	44.9	43.5	11.6	0.80			1.4	5.2	4.6	2.8	1,350
3	—	—	—	0.23			—	5.3	4.6	2.0	770

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基 (mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸 (mg/100g)		重金属類 (0.1NHCl抽出ppm)	
		CaO	MgO	K ₂ O	石灰	塩基	ブレイ2	トルカ法	銅	亜鉛
1	11.6	44	7	10	14		12.0	4.2	0.30	0.60
2	8.0	32	6	6	14		3.4	2.3	0.30	0.25
3	4.4	68	17	12	55		6.7	1.7	0.55	0.40

A-4 他の土壌統との関係

本統に類似した土壌統に岐登牛統があるが、本統の母材は火砕流堆積物であり、岐登牛統は安山岩が母材となる。

A-5 母材：非固結火成岩（火砕流堆積物）

A-6 堆積様式：残積

A-6 地形：標高400~500mの丘陵地

B-1 簡略分級式：

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	(表土の粘性)	(表土の粘着性)	(表土の風乾上の硬さ)	土地の乾湿	(透水性)	(湿潤度)	自然肥沃度	(保肥力)	(固定力)	(土層の塩基状態)	養分の豊富否	(置換性石灰含量)	(苦土)	(カリ)	(有状態リン酸)	(微量要素)	障害性	(物理的障害性)	(有害物質の有無)	災害性	(地滑りの危険度)	(増冠水の危険度)	傾斜	(自然傾斜)	(人為傾斜)	侵蝕	(耐風蝕性)	(耐水蝕性)					
	t	d	g	p			w				f				n						i		a			s				e							
畑	III	II	II	II	I	2	2	(2)	I	2	2	1	III	3	2	2	III	3	3	2	3	2	2	I	1	I	1	1	1	III	3	-	2	III	3	2	1
III f n s e II t d g																																					

B-2 利用状況：普通畑

B-3 農業上の留意事項

本統の分布する地域は比較的新しく農地造成されたところである。母材が火山ガラス質の火砕流堆積物であるため塩基類、微量元素に欠ける。まだ酸性が強いので、酸性矯正を兼ねた土壌改良資材、有機物の施用が求められる。

C 調査年月日：昭和61年5月 調査者：上川農業試験場 横井 義雄

2. 岐登牛統

A-1 土壤統の特徴

本統は標高400m前後の丘陵地に分布する。母材は安山岩である。土性は表層から下層まで細粒で、可塑性、粘着性が強い。農地造成時に表層が排除されたため、現作土の腐植含量は少ない。塩基類は少ないが微量元素には富む。全層にわたり安山岩の中・大礫を含むが、腐朽礫のため硬くない。透水性は全層とも良好である。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.12 東川町岐登牛 鈴木健治宅地先)

	土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備考
20 40	黄褐 7.5YR4/3	CL	粒状 塊状	13	強	なし	半湿	大	細粒褐色森林土
	黄褐 7.5YR4/4	CL	塊状	20	強	なし	半湿	大	安山岩腐朽礫あり
	黄褐 7.5YR5/4	CL	塊状 アリ	29	強	なし	半湿	大	安山岩腐朽礫とむ

A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重g/100ml	
			粗砂	細砂	シルト	粘土			風乾土	現地
1	0 ~ 20	2.3	34.5	14.5	30.4	20.6	CL	2.60	96.9	
2	20 ~ 40	2.2	36.0	15.1	28.7	20.2	CL	2.60	130.8	
3	40 ~	2.7	32.5	16.6	27.7	23.3	CL	—	—	

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	硝酸吸収 係数
	固相	液相	気相					H ₂ O	KCl		
1				1.04	0.08	13.0	1.8	5.3	4.2	8.4	880
2				0.77			1.3	5.2	4.3	8.5	860
				0.12				5.0	4.0	24.6	720

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基 (mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸 (mg/100g)		重金属類 (0.1NHCl抽出ppm)	
		CaO	MgO	K ₂ O	石灰	塩基	ブレイク	トルチガ法	銅	亜鉛
1	9.6	56	16	11	21		7.6	4.4	1.00	2.10
2	9.0	40	12	9	16		4.1	2.8	0.55	0.60
3	8.8	24	22	14	10		1.2	1.9	0.65	0.40

A-4 他の土壌統との関係

本統に類似し、隣接する土壌統に光和統があるが、本当の母材は安山岩であり、光和統は熔結凝灰岩である。水分環境、土壌管理法は光和統、岐登牛統とも同じである。

A-5 母材：安山岩

A-6 堆積様式：残積

A-6 地形：標高450m前後の丘陵地

B-1 簡略分級式：

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	耕転の土性	(表土の粘性)	(表土の粘着性)	(表土の風乾土の硬さ)	土の乾湿	(透水性)	(保水性)	(湿度)	自然肥沃度	(保肥力)	(固定力)	(土層の塩基状態)	養分の豊富	(置換性石灰含量)	(苦土)	(カリ)	(有効態リン酸)	(微量要素)	(酸度)	障害性	(有害物質の有無)	(物理的障害性)	災害性	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)	傾斜	(自然傾斜)	(人為傾斜)	侵蝕度	(耐風蝕性)	(耐水蝕性)		
	t	d	g	p			w					f				n								i		a		s			e						
畑	II	III	II	I	2	2	1	I	2	3	1	III	2	2	3	III	3	2	2	2	2	1	2	I	1	1	I	1	1	III	3	-	2	III	3	2	1
IIIdfnseIItg																																					

B-2 利用状況：畑

B-3 農業上の留意事項

安山岩を母材とすることから微量元素含量は高い。石灰、苦土、カリは少なく酸性でリン酸も少ない。従って、塩基の補給とリン酸資材の施用が求められる。

土壌侵食を受ける危険性があるので、斜面上部には草地を配置しておくことが望ましい。

C 調査年月日：昭和61年5月 調査者：上川農業試験場 横井 義雄

3. 上岐登牛統

A-1 土壤統の特徴

標高250m前後の傾斜地に分布している。作土直下から基盤の安山岩礫層となる。作土内にも多量の礫を含み、礫の存在が生産性を著しく低下させている。

傾斜地の下部では伏流水の影響を受け湿性を呈している部分がある。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.17 東川町上岐登牛 大坪 護宅地先)

		土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備考
20		黄褐 10YR3/3	LiC	粒状塊状	16	強	なし	半湿	大	礫質褐色森林土 安山岩の大中小礫に富む 安山岩巨大中礫からなる粘礫層
		黄褐 10YR5/6	CL 粘礫層	—	—	中	なし	湿	大	

A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重g/100ml 風乾土 現地	
			粗砂	細砂	シルト	粘土				
1	0 ~ 20	3.4	24.6	13.4	34.9	27.1	LiC			
2	20 ~ 40	3.2	34.0	15.2	32.7	18.1	CL			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リ酸吸収 係数
	固相	液相	気相					H ₂ O	KCl		
1				1.65	0.15	11.0	2.8	5.7	4.7	1.0	1,090
2				0.50				5.3	4.2	6.3	910

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基 (mg/100g)			飽和度(%)		有効態の酸 (mg/100g)		重金属類 (0.1NHCl抽出ppm)	
		CaO	MgO	K ₂ O	石灰	塩基	ブレイ2	トルカ法	銅	亜鉛
1	18.4	184	31	25	36		32.8	18.3	0.65	2.15
2	12.8	124	29	13	34		2.2	1.8	0.75	1.10

A-4 他の土壌統との関係

岐登牛統と同じく安山岩を母材としているが、本統は全層が礫層からなる。

A-5 母材：安山岩

A-6 堆積様式：残積

A-6 地形：標高250m前後の傾斜地

B-1 簡略分級式：

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	耕転の難易	耕転の難易	(表土の粘性)	(表土の粘性)	(表土の風乾土の硬さ)	土地の乾湿	(透水性)	(保水性)	(保水性)	自然肥沃度	(保肥力)	(固定力)	(土層の塩基状態)	養分の豊富	(置換性石灰含量)	(苦土)	(カリ)	(有効態リン酸)	(微量要素)	(酸度)	障害性	(物理的障害性)	(有害物質の有無)	災害性	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)	傾斜	(自然傾斜)	(傾斜の方向)	(人為傾斜)	侵蝕	(耐風蝕性)	(耐水蝕性)	
	t	d	g	p			w					f				n							i		a			s					e			
畑	II	III	IV	III	3	3	2	I	2	2	1	III	2	2	3	II	2	1	1	1	1	2	II	1	2	I	1	1	II	2	-	-	II	3	2	1
Ng III d p f II t n i s e																																				

B-2 利用状況：畑

B-3 農業上の留意事項

安山岩を母材としているため、微量元素に富む。礫の存在が営農上の大きな支障となっている。石礫除去工の施工が求められる。伏流水の徴候が認められるところでは承水路、暗渠排水の施工が必要である。また、土壌改良材による塩基の補給が必要である。

C 調査年月日：昭和61年5月 調査者：上川農業試験場 横井 義雄

4. 津山統

A-1 土壤統の特徴

本統は安山岩を母材とする土壤で、地形の凹部で周囲の水が集まるところに分布する。腐植含量はやや多い。作土及び下層土のpHは低い。断面中に斑紋が多くみられる。地下水による粘土化が進んでいるため、可塑性、粘着性が強い。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.11 東川町津山 鈴木健治宅地先)

	土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備 考	
33	□ 斜線 □	黑色 10YR2/3	LiC	粒状 細塊	15	強	なし	湿	中	細粒灰色台地土
60	××× × × ×××	黄褐 10YR5/3	CL	塊状	28	強	雲状 ム	潤	中	作土境界面に 湧水あり
	××× □ □ ××× □ □	黄褐 10YR6/4	L	連結 状	25	強	雲状 ム	潤	小	

A-3 代表土壤断面の理化学性

層 位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重g/100ml	
			粗砂	細砂	シルト	粘土			風乾土	現地
1	0 ~ 33	3.6	24.7	14.5	33.3	27.6	LiC			
2	33 ~ 60	2.6	32.2	16.6	35.6	15.6	CL			
3	60 ~	3.2	34.1	15.0	36.8	14.1	L			

層 位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リソ酸吸収 係数
	固相	液相	気相					H ₂ O	KCl		
1				3.48	0.26	13.4	6.0	5.2	4.2	12.5	850
2				0.20				5.3	4.0	0.9	590
3				0.03				6.1	4.5	4.6	630

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基 (mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸 (mg/100g)		重金属類 (0.1NHC1抽出ppm)	
		CaO	MgO	K ₂ O	石灰	塩基	フレイク	トルカ法	銅	亜鉛
1	17.8	168	47	16	34		6.6	4.2	1.10	3.20
2	9.6	88	59	12	32		1.5	2.1	0.55	0.50
3	11.2	224	131	15	71		2.0	2.9	0.80	2.10

A-4 他の土壌統との関係

本統は岐登牛統の中にあつて地形の凹部で水が集まる部分に生成した土壌統である。分布面積は少ない。

A-5 母材：安山岩

A-6 堆積様式：残積

A-6 地形：標高450m前後の丘陵地凹部

B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	(表土の粘性)	(表土の粘着性)	(表土の乾燥)	土地の乾湿	(透水)	(保水性)	(湿润度)	自然肥沃度	(保肥力)	(固定力)	(土層の塩基状態)	養分の豊富	(置換性石灰含量)	(苦土)	(カ)	(有効態リン酸)	(微量要素)	(酸度)	障害性	(物理的障害性)	(有害物質の有無)	災害性	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)	傾斜	(自然傾斜)	(傾斜の方向)	(人為傾斜)	侵蝕	(耐風蝕性)	(耐水蝕性)			
	t	d	g	p		w		f					n										i		a				s					e				
畑	I	III	I	III	3	3	2	III	3	3	2	III	2	2	3	II	2	I	2	2	1	2	I	1	1	1	1	1	1	1	II	2	-	-	II	2	2	1
III dpwf II nse																																						

B-2 利用状況：畑

B-3 農業上の留意事項

地形的に周囲から水が集まるため湿害を受ける恐れがある。暗渠排水を行うこと。酸性が強いのので酸性矯正、リン酸資材の施用が特に必要である。

C 調査年月日：昭和61年5月 調査者：上川農業試験場 横井 義雄

5. 北立統

A-1 土壤統の特徴

本統は丘陵地につながる台地部分に分布する。母材は丘陵地を形成する安山岩質の褐色森林土が再堆積したものである。土性は細粒で強粘質である。伏流水の影響を受けている。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.1 東7号14番 佐藤正仲宅地先)

土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備考
15 23	黑色 10YR2/2	CL 塊状	18	強	糸根	湿	小	細粒灰色台地土
32	黑色 10YR5/6	CL 塊状	25	強	膜状	湿湿	小小	
40	黄褐	CL 無	27	強	無	湿	小小	
53	10YR2/1	CL 塊状	20	強	糸根	湿	小	
70	黑色 2.5Y4/2	CL 塊状	18	強	糸根	湿	小中	
	黄褐 2.5Y7/3	L 塊状	20	中	雲状	湿湿	中中	
		SL 塊状	22	中	雲状	湿	中	

A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重g/100ml	
			粗砂	細砂	シルト	粘土			風乾土	現地
1	0 ~ 23	2.9	40.7	14.7	22.0	22.5	CL	2.60	108.0	
2	23 ~ 32	2.5	40.7	14.5	23.8	21.0	CL	2.50	110.4	
3	32 ~ 53	4.1	33.0	15.5	27.1	24.4	CL			
4	53 ~	1.9	44.6	15.3	26.2	14.0	L			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リソ酸吸収 係数
	固相	液相	気相					H ₂ O	KCl		
1				2.93	0.19	15.4	5.1	5.6	4.6	5.3	860
2				0.86			1.5	5.4	4.2	5.8	580
3				3.84	0.26	14.8	6.6	5.5	4.4	6.4	1,270
4				0.27				5.6	4.1	6.5	

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基 (mg/100g)			飽和度(%)		有効態リ酸 (mg/100g)		有効態珪酸mg	重金属類 (ppm)	
		CaO	MgO	K ₂ O	石灰	塩基	ブレイ2	トルカ法		銅	亜鉛
1	13.8	128	26	18	33		47.2	16.5	36.0	1.50	4.65
2	11.8	96	31	18	29		4.5	1.9		0.95	1.75
3	18.0	100	27	11	20		8.9	1.3		1.15	3.05
4	4.8	60	20	9	44		2.5	2.3		0.70	0.90

A-4 他の土壌統との関係

本統に類似する統として津山統がある。両統とも伏流水の影響を受けて湿性を呈する。

A-5 母材：安山岩

A-6 堆積様式：洪積

A-6 地形：丘陵周辺に付随する台地

B-1 簡略分級式

	土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	耕耘の難易	耕転の土性	(表土の粘性)	(表土の粘着性)	(表土の風乾度の硬さ)	溝水透水性	(作上下50cmの土性)	(//の最高ち密度)	酸化還元性	(易分解性有機物含量)	(遊離酸化鉄含量)	(グライ化度)	土地の乾湿	(透水性)	(保水性)	(湿潤度)	自然肥沃度	(保肥力)	(固定力)	(土層の塩基状態)	養分の豊富	(置換性石灰含量)	(//苦土//)	(//カリ//)	(//窒素//)	(//珪酸//)	(微量要素)	障害性	(有害物質の有無)	(物理的障害性)	災害性	(地滑りの危険度)	(増冠水の危険度)	
	t	d	g	p					l			r				w			f			n															
稲畑	I	I	I	III	3	3	2	I	2	2	I	1	1	1	III	3	2	3	II	2	2	3	III	2	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	II	II	I	III	3	3	2												II	2	2	3	III	2	1	1	1	3	1	1	2	1	1	1	1	1	
	稲 IIIpnII f										畑 IIIpwnII tdf																										

B-2 利用状況：水田

B-3 農業上の留意事項

土層全体が強粘質である。転換畑では湿害をおこす恐れがある。また少雨時には干ばつとなりやすい。暗渠排水を完備すること。

C 調査年月日：昭和61年5月 調査者：上川農業試験場 横井 義雄

6. 西 忠 別 統

A-1 土壤統の特徴

本統は東川町内の低地に広く分布する腐植の多い褐色低地土である。排水良好で有効土層は深い。作土の腐植含量が7~10%と多いのが特徴である。リン酸固定力が強い。礫は存在しない。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.7 西8号北17番 石本 悟宅地先)

	土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備 考
17	黑色 10YR2/2	LiC	粒状	16	弱	なし	半湿	大	細粒褐色低地土
24	〃 〃 黑色 10YR2/1	LiC CL	塊状 塊状	22 21	中 中	なし なし	湿湿 湿	中 中	
45	黄褐 10YR6/8	LiC	塊状	18	中	なし	湿	大	
	黄褐 10YR5/4	S	单粒	—	弱	なし	湿	大	
80									

A-3 代表土壤断面の理化学性

層 位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重g/100ml	
			粗砂	細砂	シルト	粘土			風乾土	現地
1	0 ~ 24	3.4	17.3	22.8	36.9	23.1	LiC	2.50	79.2	
2	24 ~ 45	6.3	7.8	32.3	39.6	20.4	CL	2.40	88.9	
3	45 ~ 80	4.1	6.4	23.6	43.9	26.1	LiC			

層 位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リソ酸吸収 係数
	固相	液相	気相					H ₂ O	KCl		
1				4.29	0.41	10.5	7.4	5.9	4.9	1.3	1,600
2				4.41	0.44	10.0	7.6	5.6	4.7	1.3	1,800
3				0.56			1.0	5.7	4.5	8.9	1,160

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基 (mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸 (mg/100g)		有効態珪酸mg	重金属類 (ppm)	
		CaO	MgO	K ₂ O	石灰	塩基	ブレイ2	トルケ法		銅	亜鉛
1	27.2	268	55	25	35		22.3	7.6	69.0	0.25	2.85
2	31.4	256	57	24	29		2.6	1.1		0.20	0.60
3	16.6	208	58	20	45		1.1	0.9		0.30	0.30

A-4 他の土壌統との関係

本統と同じ土壌群に区分されている統に忠別中央統と忠別川統があるが、これらはいずれも下層に礫層をもつことで本統と区別される。

A-5 母材：非固結水成岩

A-6 堆積様式：沖積（河成）

A-6 地形：沖積面

B-1 簡略分級式

	土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕転の難易	（表土の粘性）	（表土の粘着性）	（表上の風乾度の硬さ）	（表土の透水性）	（作上下50cmの土性）	（の最高ち密度）	酸化還元性	（易分解性有機物含量）	（遊離酸化鉄含量）	（グライ化度）	土地の乾湿	（透水性）	（保水性）	（湿潤度）	自然肥沃度	（保肥力）	（固定力）	（土層の塩基状態）	養分の豊富否	（置換性石灰含量）	（苦土）	（カリ）	（リン酸）	（珪酸）	（微量元素）	（酸度）	（微量要素）	（有害物質の有無）	（物理的障害性）	（有害物質の有害性）	（地滑りの危険度）	（増冠水の危険度）	（災害性）				
	t	d	g	p																																						
稲畑	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II
	稲 II pfn										畑 II tpf n																															

B-2 利用状況：水田、転換畑

B-3 農業上の留意事項

排水良好で良好な土壌であるが、腐植含量が多いため麦を作付した場合銅欠乏症がみられることがあるのでこの点に注意すること。

C 調査年月日：昭和61年5月 調査者：上川農業試験場 横井 義雄

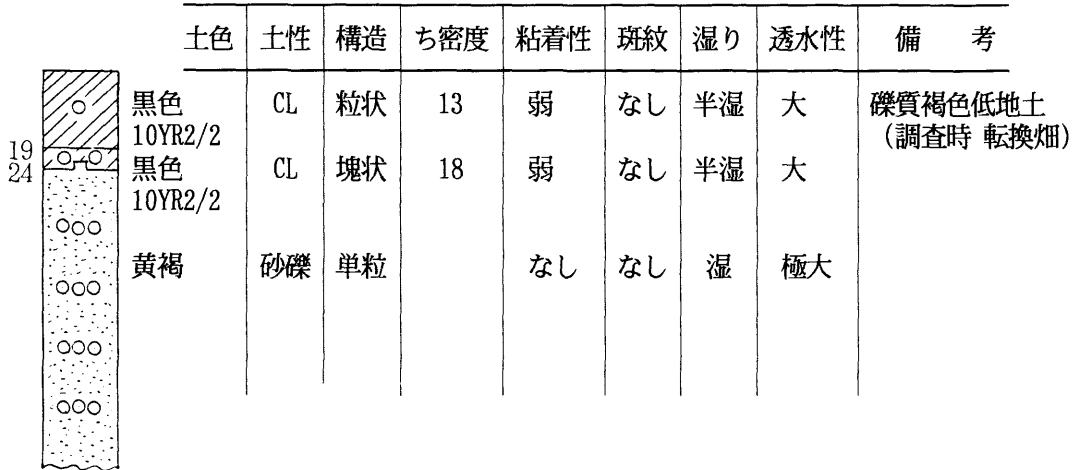
7. 忠別中央統

A-1 土壤統の特徴

表層に腐植層をもつ褐色低地土であるが、作土直下から砂礫層となる。畑作物について有効効土層は浅い。転換畑では下層からの石礫が作土内に取り込まれるため作業性をていかさせている。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.6 西5号北23番 山田 茂宅地先)



A-3 代表土壤断面の理化学性

層 位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重g/100ml	
			粗砂	細砂	シルト	粘土			風乾土	現地
1	0 ~ 24	5.0	22.9	24.0	30.2	22.9	CL	2.50	93.5	

層 位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リ酸吸収 係数
	固相	液相	気相					H ₂ O	KCl		
1				4.41	0.36	12.3	7.6	5.6	4.5	0.5	1,480

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基 (mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸 (mg/100g)		有効態珪酸mg	重金属類 (ppm)	
		CaO	MgO	K ₂ O	石灰	塩基	ブレイ2	トルガ法		銅	亜鉛
1	26.2	196	41	32	27		41.4	15.0	52.0	0.30	4.00

A-4 他の土壌統との関係

本統に類似する統として、西忠別統がある。本統と同様に作土中の腐植含量が高いが、砂礫層がないことで区別できる。また、砂、礫砂が存在することでは忠別川統と類似するが、表層の腐植含量が少ないことで本統とは区別できる。

A-5 母材：非固結水成岩

A-6 堆積様式：沖積（河成）

A-6 地形：沖積面

B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	耕転の土性	(表土の粘性)	(表土の粘着性)	(表土の風乾度の硬さ)	水分透過性	酸化還元性	(遊離酸化鉄含量)	土地の乾湿	(透水性)	(保水性)	自然肥沃度	(保肥力)	(固定力)	(土層の塩基状態)	養分の豊富否	(置換性石灰含量)	(苦土)	(有効態リン酸)	(窒素)	(珪酸)	(微量元素)	(酸化度)	障害性	(有害物質の有無)	災害性	(地滑りの危険度)	(増冠水の危険度)		
																																t	d
稲畑	III	I	III	II	I	2	2	1	III	3	3	I	2	3	1	II	1	2	3	II	2	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1
	III	II	III	II	I	2	2	1				II	1	2	(2)	II	1	2	3	II	2	1	1	1	-	-	2	2	I	1	1	1	1
	稲 III d l II g f n																畑 III d II t g w f n																

B-2 利用状況：水田、転換畑

B-3 農業上の留意事項

転換畑では、礫が作土層に混入して機械作業上支障をきたすことがある。作土層の腐植含量が多いので麦作において銅欠乏症が発生する恐れがある。

C 調査年月日：昭和61年5月 調査者：上川農業試験場 横井 義雄

8. 忠別川統

A-1 土壤統の特徴

東川町内では最も新しい時代にできた土壤統である。忠別川の氾濫によって砂、礫が堆積して出来た土壤統である。川の上流部のため粘土は少なく、土性は粗い。保肥力、緩衝能が小さい。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.8)

	土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備 考
12	黄褐	SL	粒質	15	弱	糸根	半湿	大	礫質褐色低地土
21	2.5Y4/3 黄褐	S	単粒	—	弱	膜状	湿	大	
35	10YR4/4 灰色	S	塊状	27	弱	点状	湿	大	
	2.5Y4/2 灰褐	礫層	単粒	—	なし		湿	大	

A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重g/100ml	
			粗砂	細砂	シルト	粘土			風乾土	現地
1	0 12	1.7	47.7	26.0	14.5	11.8	SL	2.60	124.2	

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	以酸吸収 係数
	固相	液相	気相					H ₂ O	KCl		
1				0.95	0.11	8.6	1.6	5.0	4.1	5.4	470

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基 (mg/100g)			飽和度(%)		有効態の酸 (mg/100g)		有効態珪酸mg	重金属類 (ppm)	
		CaO	MgO	K ₂ O	石灰	塩基	ブレイ2	トルカ ² 法		銅	亜鉛
1	8.8	124	22	16	50		139.8	26.5		2.25	2.25

A-4 他の土壌統との関係

本統に類似する統として忠別中央統があるが、本統より作土層の腐植含量が多いことで区別できる。

A-5 母材：非固結水成岩

A-6 堆積様式：沖積（河成）

A-6 地形：沖積面

B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	耕(表土の粘性)	表土の粘性	表土の風乾度の硬さ	溝(作上下50cmの土性)	水透水性	酸(易分解性有機物含量)	酸(遊離酸化鉄含量)	酸(の最高ち密度)	土(の乾湿)	土(の透水性)	自然(潤度)	自然(肥沃度)	自然(保肥力)	自然(固定力)	養(土層の塩基状態)	養(置換性石灰含量)	養(苦土)	養(カリ)	養(窒素)	養(珪酸)	養(微量要素)	障(害性)	障(物理的障害の有無)	災(増冠水の危険度)	災(地滑りの危険度)			
t	d	g	p					l		r			w		f				n							i		a				
稲畑	III	II	II	III	I	I	I	II	3	2	I	I	I	I	II	2	1	2	III	2	2	2	1	3	1	1	3	I	1	1	1	1
	III	III	III	I	I	I	II						I	1	2	1	II	2	III	2	2	1	3	1	1	3	I	1	1	1	1	
	稲 IIIgnIItdlf																畑 IIItdgnII f															

B-2 利用状況：水田、転換畑

B-3 農業上の留意事項

作土の酸性は強いが、土性が粗粒質なため緩衝力は小さい。従って、酸性矯正にあたっては過石灰とならぬよう注意が必要である。また、水田作では有効態ケイ酸に不足するのでケイ酸資材の施用を行うこと。

C 調査年月日：昭和61年5月 調査者：上川農業試験場 横井 義雄

9. 東 忠 別 統

A-1 土壤統の特徴

東川町内の主要水田地帯に分布する灰色低地土の土壤統である。褐色低地土の西忠別統と同一地形面に分布するが、排水がやや不良となっている。作土の腐植含量はやや少なくなっている。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.2 東6号北14番 本多行雄宅地先)

	土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備 考
12	灰褐 10YR3/2	CL	塊状	15	中	なし	湿	中	細粒灰色低地土
25	灰褐 10YR3/2	CL	なし	26	中	なし	湿	中	
	黄褐 2.5Y6/3	L	塊状	25	中	雲状 ム	湿	小	
65	黄褐 2.5Y5/3	LS	単粒	23	弱	雲状 ム	湿	中	湧水面 65 cm

A-3 代表土壤断面の理化学性

層 位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重g/100ml	
			粗砂	細砂	シルト	粘土			風乾土	現地
1	0 ~ 25	3.0	36.9	13.7	27.9	21.6	CL	2.50	102.3	
2	25 ~ 65	2.3	49.5	13.4	24.0	12.1	L			
3	65 ~	1.6	79.0	10.0	4.2	6.8	LS			

層 位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リソ酸吸収 係数
	固相	液相	気相					H ₂ O	KCl		
1				2.24	0.18	12.4	3.9	5.4	4.4	2.9	870
2				0.24				5.5	4.4	3.3	600
3				0.27				5.4	4.5	3.4	610

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基 (mg/100g)			飽和度(%)		有効態リ酸 (mg/100g)		有効態珪酸mg	重金属類 (ppm)	
		CaO	MgO	K ₂ O	石灰	塩基	ブレイ2	トルガ法		銅	亜鉛
1	9.8	140	26	19	51		46.8	15.6	42.0	1.15	3.15
2	4.0	84	19	14	75		3.9	2.0		0.30	1.30
3	4.8	16	3	7	13		20.4	4.2		0.40	1.00

A-4 他の土壌統との関係

褐色低地土の西忠別統に接しているが、本統の方が排水不良となっている。

A-5 母材：非固結水成岩

A-6 堆積様式：沖積（河成）

A-6 地形：沖積面

B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	耕転の難易	耕転の土性	(表土の粘性)	(表土の風乾度の硬さ)	洪水透過水性	(作上下50cmの土性)	(の最高ち密度)	酸化還元性	(易分解性有機物含量)	(遊離酸化鉄含量)	土地の乾湿	(グライ化度)	(透水性)	自然肥沃度	(湿度)	(保水性)	(保肥力)	(固定力)	(土層の塩基状態)	養分の豊富	(置換性石灰含量)	(苦土)	(カリ)	(有効態リン酸)	(窒素)	(珪酸)	(微量要素)	(酸度)	障害性	(有害物質の有無)	(物理的障害性)	災害性	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)
	t	d	g	p			l			r			w			f				n																
稲畑	II	II	I	I	2	2	II	3	2	I	1	2	1			I	2	2	2	1	II	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	III	III	I	I	2	2							II	2	2	II	2	2	1	II	1	1	1	1	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	
	稲 II t l n										畑 III t II d w f n																									

B-2 利用状況：水田、転換畑

B-3 農業上の留意事項

褐色低地土より排水不良の灰色低地土であることから、水田、転換畑利用とも、心土破砕による透水性改善が必要である。塩基類にやや欠けるので土壌改良資材の施用が求められる。

C 調査年月日：昭和61年5月 調査者：上川農業試験場 横井 義雄

10. 東 雲 統

A-1 土壌統の特徴

沢地帯に分布する排水不良の土壌統である。作土の腐植含量は多く、心土にグライ層が出現する。沢のため、両側の山地からの伏流水によって常時、水が下層に停滞している。

A-2 代表的土壌断面の記載

土壌断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.3 東6号北31番 笠松正雄宅地先)

	土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備 考
14	黑色 10YR2/2	LiC	塊状	13	中	糸根	湿	中	細粒グライ土
25	黑色 10YR2/2	LiC	塊状	18	中	糸根	湿	中	
35	黑色 10YR2/1	CL	塊状	22	中	糸根	湿	中	
45	黄褐 10YR5/6	CL	なし	20	中	雲状 ト なし	湿	小	
	青灰 10GY6/1	LS	単粒	22	弱	なし	湿	小	

A-3 代表土壌断面の理化学性

層 位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重g/100ml	
			粗砂	細砂	シルト	粘土			風乾土	現地
1	0 ~ 25	3.9	16.9	22.3	34.0	26.8	LiC	2.50	94.9	
2	25 ~ 45	4.9	13.8	23.3	38.0	24.9	CL	2.50	105.2	
3	45 ~	1.2	81.0	8.1	6.7	4.2	LS			

層 位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リ酸吸収 係数
	固相	液相	気相					H ₂ O	KCl		
1				2.73	0.21	13.0	4.7	5.8	4.9	0.9	1,050
2				4.65	0.33	14.1	8.0	5.4	4.4	3.5	1,070
3				0.11				5.6	4.1	6.1	210

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基 (mg/100g)			飽和度(%)		有効態リ酸 (mg/100g)		有効態珪酸mg	重金属類 (ppm)	
		CaO	MgO	K ₂ O	石灰	塩基	ブレイク	トルケ法		銅	亜鉛
1	18.0	228	45	28	45		63.5	20.3	63.0	0.70	4.70
2	22.4	180	35	19	29		42.3	16.8		0.75	4.70
3	3.8	72	16	12	68		3.4	3.5		1.15	3.45

A-4 他の土壌統との関係

本統に類似する統として、グライ土の倉沼統がある。本統の方が作土の腐植含量が多いことで区別できる。

A-5 母材：非固結水成岩

A-6 堆積様式：沖積（河成）

A-6 地形：沢の沖積面

B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕転の難易	(表土の粘性)	(表土の風乾度の硬さ)	湛水透水性	(作土下50cmの土性)	(//の最高ち密度)	酸化還元性	(易分解性有機物含量)	(遊離酸化鉄含量)	(グライ化度)	土地の乾湿	(透水性)	(保水性)	(湿潤度)	自然肥沃度	(保肥力)	(固定力)	(土層の塩基状態)	養分の豊富	(置換性石灰含量)	(//の苦土)	(//の力)	(有効態リン酸)	(//の窒素)	(//の珪酸)	(微量要素)	障害性	(有害物質の有無)	(物理的障害性)	災害性	(地滑りの危険度)	(増冠水の危険度)
級	t	d	g	p		l		r		w		f		n		i	a																		
稲	III	I	II	I	III	3	3	2	II	3	2	II	2	2	III	3	2	2	I	2	2	1	I	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1
畑	III	II	III	I	III	3	3	2							III	3	2	2	II	2	2	1	II	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1
	稲 IIIpIIldr																	畑 IIIdpwII tfn																	

B-2 利用状況：水田

B-3 農業上の留意事項

伏流水の影響を軽減するため、山地との境界には承水路を設置すること。耕地内には暗渠排水を完備すること。排水不良地では、酸性が強いため転換畑利用では注意すること。

C 調査年月日：昭和61年5月 調査者：上川農業試験場 横井 義雄

11. 倉 沼 統

A-1 土壤統の特徴

倉沼川の氾濫によって生成された土壤統である。上流部には比較的粘土の多い安山岩質母材があるため、強粘質な土壤が生成したものである。地形的にはやや凹地となっているため湖沼堆積のようであったかもしれない。作土直下にグライ層が出現する。排水不良のため酸性を呈し、とくに下層土の酸性が強い。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.5 西6号北38番 園田英康宅地先)

	土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備 考
12	黄褐 10YR4/3	LiC	塊状	13	中	糸根	湿	中	細粒グライ土
19	// //	LiC	なし	15	中強	糸根	湿	小小	
32	黄褐 10YR6/2	LiC	塊状	22	強	雲状 ム	湿	小小	
	青灰 7.5GY6/1	HC	連結 状	19	強	脈状 アリ	湿	小	
	青灰 7.5GY6/1	S	連結 状	16	弱	なし	潤	小	
66									

A-3 代表土壤断面の理化学性

層 位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重g/100ml	
			粗砂	細砂	シルト	粘土			風乾土	現地
1	0 ~ 19	3.8	23.8	18.1	30.9	27.3	LiC	2.50	94.6	
2	19 ~ 32	3.6	6.5	11.8	41.7	40.0	LiC	2.60	107.6	
3	32 ~ 66	4.0	0.9	7.2	41.0	50.9	HC			

層 位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リソ酸吸収 係数
	固相	液相	気相					H ₂ O	KCl		
1				2.84	0.27	10.5	4.9	5.4	4.0	8.5	1,110
2				1.64			2.8	5.0	4.0	8.4	830
3				3.59			6.2	4.9	3.4	24.1	830

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基 (mg/100g)			飽和度(%)		有効態の酸 (mg/100g)		有効態珪酸mg	重金属類 (ppm)	
		CaO	MgO	K ₂ O	石灰	塩基	ブレイ2	トルガ法		銅	亜鉛
1	14.4	152	28	18	38		82.6	16.9	51.0	1.65	2.95
2	16.2	156	45	12	35		16.2	6.9		1.05	1.75
3	18.0	184	103	13	37		3.8	1.6		5.35	5.30

A-4 他の土壌統との関係

同じグライ土の土壌統として、東雲統があるが、本統の方が腐植含量が少ないことで区別できる。

A-5 母材：非固結水成岩（安山岩質母材堆積物）

A-6 堆積様式：沖積（河成、湖成）

A-6 地形：沖積面低地

B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	耕転の土性	(表土の粘性)	(表土の粘着性)	(表土の風乾度の硬さ)	水透水性	作上下50cmの土性	(の最高ち密度)	酸化還元性	(易分解性有機物含量)	(遊離酸化鉄含量)	(グライ化度)	土地の乾湿	(透水性)	(保水性)	(湿潤度)	自然肥沃度	(保肥力)	(固定力)	(土層の塩基状態)	養分の豊富否	(置換性石灰含量)	(苦上)	(カリ)	(有効態リン酸)	(窒素)	(珪酸)	(微量元素)	障害性	(有害物質の有無)	(物理的障害性)	災害性	(地滑りの危険度)	(増冠水の危険度)	
級	t	d	g	p		l		r		w		f		n		i		a																				
稲畑	III	II	II	I	III	3	3	2	I	1	2	I	2	2	3	III	3	3	3	II	2	2	2	II	2	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1
	稲 IIIpIItdfn										畑 IIItdpwIIfn																											

B-2 利用状況：水田

B-3 農業上の留意事項

作土直下からグライ層が出現し、酸性を呈する。明渠の完備、暗渠排水により地下水位を低下させることが水田の高度利用からも必要なことである。

C 調査年月日：昭和61年5月 調査者：上川農業試験場 横井 義雄

12. 下岐登牛統

A-1 土壤統の特徴

倉沼川の上流部に分布し、東川町では唯一の泥炭土である。泥炭層はヨシ、ハンノキを主体とする低位泥炭土で、その厚さは10cm前後であるが、泥炭の分解が進んで粘土と混じった多腐植層が存在する。

A-2 代表的土壤断面の記載

土壤断面の概要と柱状図 (試坑地点 No.4 1号38番 吉田孝一宅地先)

土色	土性	構造	ち密度	粘着性	斑紋	湿り	透水性	備考
12 10YR2/2 黑色	LiC	塊状	13	中	糸根	湿	中	低位泥炭土
24 10YR2/2 黑色	LiC	連結状	20	中	まし	湿	中	
34 10YR2/3 黑色	泥炭	連結状	13	中	なし	湿	中	
10YR3/1 黑色	HC	連結状	10	強	なし	湿	小	
65 7.5Y7/2 灰色	S	単粒	20	弱	なし	湿	小	

A-3 代表土壤断面の理化学性

層位	採取部位 (cm)	水分 (%)	粒 径 組 成 (%)				国際法 土 性	真比重	容積重g/100ml	
			粗砂	細砂	シルト	粘土			風乾土	現地
1	0 ~ 24	5.2	29.3	15.9	23.4	31.5	LiC	2.30	79.2	
2	24 ~ 34	8.7					泥炭	2.30	56.4	
3	34 ~ 65	8.0	0.9	1.1	6.2	91.8	HC			

層位	3 相 分 布 (%)			全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植 (%)	pH		置換 酸度	リソ酸吸収 係数
	固相	液相	気相					H ₂ O	KCl		
1				5.67	0.32	17.7	9.8	5.0	4.1	7.1	860
2								4.8	3.9	6.4	
3				5.19	0.31	16.7	8.9	4.7	3.5	41.0	

層位	塩基交換容量 (me/100g)	交換性塩基 (mg/100g)			飽和度(%)		有効態リン酸 (mg/100g)		有効態珪酸mg	重金属類 (ppm)	
		CaO	MgO	K ₂ O	石灰	塩基	ブレイ2	トルガ法		銅	亜鉛
1	22.6	136	28	41	22		48.7	13.3	27.0	1.10	2.80
2		152	41	16						0.30	0.45
3	38.6	144	83	19	13					0.80	0.55

A-4 他の土壌統との関係

泥炭に由来する土壌統は本統のみである。泥炭地帯の土壌統と比較すると泥炭層は極めて薄く黒泥土壌に近い断面形態を示している。

A-5 母材：ヨシ、ハンノキ

A-6 堆積様式：集積/水積(河成)

A-6 地形：沖積面の低地

B-1 簡略分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕耘の難易	耕土の土性	(表土の粘性)	(表土の風乾度の硬さ)	水透水性	作上下50cmの土性	(%)の最高ち密度	酸化還元性	(易分解性有機物含量)	(遊離酸化鉄含量)	土の乾湿	(グライ化度)	(透水性)	(保水性)	(湿潤度)	自然肥力	(保肥力)	(固定力)	(土層の塩基状態)	養分の豊富	(置換性石灰含量)	(苦土)	(有効態リン酸)	(窒素)	(珪酸)	(微量元素)	酸度	障害性	(物理的障害性)	(有害物質の有無)	災害性	(増冠水の危険度)	(地滑りの危険度)
級	t	d	g	p				l		r		w		f		n		i	a																	
稲畑	III	II	II	I	III	3	3	2	II	1	3	II	3	2	2		II	1	2	3	III	2	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	II	2	1
	III	II	III	I	III	3	3	2						II	2	2	2					III	2	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	II	2	1
稲 IIIpIItdlrfna 畑 IIIdpnIItwa																																				

B-2 利用状況：水田

B-3 農業上の留意事項

酸性は強く、排水不良地であり泥炭の混入分解により窒素地力は高くなっているため水稲作では倒伏の危険性がある。有効態ケイ酸の含量は少いのでケイ酸資材の施用に努めること。明渠及び暗渠排水を完備すること。

C 調査年月日：昭和61年5月 調査者：上川農業試験場 横井 義雄